

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	大山 一樹 (おおやま かずき)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 11 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本ストレスマネジメント学会第 20 回学術大会・研修会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	大山一樹
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	インターネット等の依存的使用の機能に関する展望
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
【目的】 本研究では、ネット等の使用について記述がある研究を対象として、機能の観点から記述的に検討することを目的とした。 【方法】 論文検索には、文献データベースとして「PsycINFO」,「PubMed」,「Web of Science」,「Scopus」を用いて、文献検索を行った (2022 年 6 月 24 日時点)。検索ワードとしては、「“internet” AND “cognitive behavioral therapy” AND “addiction”」を用いた。その結果、合計 840 編の文献が収集された。そのうち、重複している文献を除外し、(a) ネット等の依存に関する文献であること、(b) 学術論文であること、(c) 症例報告であること、という 3 つの基準を満たす論文を 19 編抽出し、分析対象とした。なお、データ抽出にあたっては、PRISMA 声明に従った。 【結果・考察】 抽出した 19 編の論文から、「ネット等の使用の理由」に相当する記述を抽出した。さらに類似した記述を排除し、計 31 個の記述に整理した。そして、認知行動療法を専門とする大学院生 3 名の評定者が KJ 法を援用して分類した。最終的に 27 個の記述を選出し、「楽しさや向上心」、「ネット上の交流」、「退屈しのぎ」、「ネット上の有名人になることの追求」、「性的興奮」、「回避」、「不安解消」、「先延ばし」、「性的不満の補完」の 9 つのカテゴリーに大別できると判断した。これらのカテゴリーのうち、「楽しさや向上心」、「ネット上の交流」、「退屈しのぎ」、「ネット上の有名人になることの追求」、「性的興奮」が正の強化のタイプの機能、「回避」、「不安解消」、「先延ばし」、「性的不満の補完」が負の強化のタイプの機能を有していることが推測された。今後、ネット等の依存の重症度との関連を検討することによって、依存につながりやすい機能の特定が可能になると考えられる。また、ネット等の使用の機能に着目したアセスメントとして有用なツールになる可能性があることが考えられる。	

※無断転載禁止